

= 明日に向けて =

9月号の発信がないことから、前期最後の8月号委員長メッセージを見て、どうしたんだろう？退任して大分に帰ったのか、と心配してくれる人がいたならばうれしいかぎり。

ご案内の通り、後半の9月は役員改選期。よって、定期大会での役員選出結果を受けてはじめて動き出す。基幹労連第19回定期大会は、基幹労連が発足した日と同じ9月9日に開催された。総じて高い信任をいただき第11期の体制が整ったが、これらは前期の中央・地方含む役員の方々のご苦勞と活躍が示してくれた結果として、中央本部役員一同、気を引き締めて臨んでいきたい。委員長メッセージも、引き続き、時にまじめに、時に楽しく、皆さんに思いを届けたい。どうぞ、よろしく願いいたします。

さて、足もとでは、デジタル社会の進展や脱炭素社会など経済・社会の大変革期、そして未だ収束の兆しの見えぬ新型コロナウイルス感染症・With/After コロナへの対応など、取り巻く課題も深く、大きい。とりわけ、ものづくり産業に関わる各企業にとって、また、そのカウンターパートである私たち労働組合にとっても、避けて通れない課題が山積している。

かつてとは規模も形も違うその荒波の中で、基幹労連第11期がスタートした。その中央執行委員長として三期目の就任。心新たに組合役員として歩んでいく決意をした33年前の思いを忘れず取り組んでいく所存。

職場原点の好循環、組合員とその家族の幸せ追及、そして働くもの・生活者に目を向けて、みんなの笑顔をつくるための取り組み…、変わらぬ目標である。

幾度かお話ししたであろう「お陰様で」という言葉。一説に、お釈迦様が影に日向に守ってくれている仏教用語ともいわれているが、「お陰様で」という言葉を交わせることは、平凡な日常だからこそ、互いが幸せを感じる時なのかもしれない。

労働組合は空気のような存在、なければ命にかかわる、そんな話を若いころ聞いていた。間違ではない、しかし私は「一杯の水であれ」という信念を持ってきた。必要な時にそこにあり、必ず欲するものであり、常にそばに寄り添う存在。それは、産業別運動を形作る、企業連・単組、支部や分会、そしてその第一線で活躍する役員みんなの思いと行動がなければ成し遂げられない。

職場で仲間と会ったとき、また、地域で仲間とご家族に会ったとき、ものの言い方は違おうと、互いから「お陰様で」、そんな言葉が出てきたら、いい一日になる気がする。労働組合の究極の目的と言ってきた「組合員とその家族の幸せ追及」は、まさにそのためのものであることも忘れまい。

当座の課題、まずは仲間の命と健康を守ること。AP22春季取り組み、そして、明年7月の第26回参議院議員選挙での捲土重来・村田きょうこの必勝は必須。

定期大会の最後に、ガンバロー三唱を行った。そこに込めた思いは、コロナと災害に打ち勝つ、AP春季取り組みも勝つ（しっかり結果を残すこと）、そして村田きょうこの議員バッジを勝ち取る。勝つ・勝つ・勝つ。

第11期運動方針に掲げた課題を、加盟組合・構成組織、県本部、県センターのみんなと協議し、互いの心と力を合わせて、275,415人の仲間とその家族の幸せづくりにつながる運動を進めていく。

老体をさらに鍛えながら（笑）、頑張る覚悟。ともに、明日のために今、互いの協力と努力で、勝って、20周年！ともに明日につなぐ道を切り拓いていこう。

ご安全に

2021年9月14日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一